

今度琉球人出京之器ニ付ルニ旅宿多設可有之尤
日國人ニ年座致一其趣ニ付ニ其心際を以テ斗
可里之也

壬申八月十三日

正院

外務省

外務省

八月十五日

正院

外務省

出中

近日環球人之京に付るに接對儀之儀見込可
申途者被取出在回國に因り所屬之儀に付外
國人と視做し接對に及ばざるに接對儀
礼を以て接對儀に付琉人之附添未だ展見
縣官負共想ら大十省に屬し大接對に用掛
被命出維新以來初而入貢之儀に付備置
亦承扱出奉り然るに可成り本省年

外務省

展見島名に達し亦少許有るに度也
壬申八月十五日

別紙琉球人承扱治達書事達ニ及有由為有可
有之由也

丁丑申八月十九日

史官

外務大少丞

丙午

外務省

今般琉球使人攝政之司官三名之方他陸海之
者二十七人來 朝者之付於之省事了可
系扱事

外務省

但唐見島系附添收負之省官負之付
諸事之扱可為扱事

壬申八月十九日

太政官

史官

法中

外務大臣官本小一

琉球使官上京之儀ニ付分紙字之通本日在
児島象ヨリ届出未ル廿四日比着京之見込五
省申立各留別紙書居申込也

壬申八月廿日

藩縣管轄琉球國中山王正使其人副使一人

外務省

賛議官其人外に随從者三十人迎て参有之
臣令般象元ヨリ申越各留別紙書居申
込也

但權典事其人權典事其人權典事
其人史生其人参有之各以中系リ

壬申八月廿日

唐児島象印

外務省

法中

正院

外務省

表中

今般琉球人上京ニ付テ滞留中旅館等
朝必在候或モ眠浴具ニ未ニ至ル迄候事
見苦標榜對拒設備ナク有テ苦勞ニテ右費
凡日當金三万圓ト差定テ向金已シテ因大
症省ヨリお渡有標出達一有ニ候事此如
事伺有也

壬申八月廿日

外務省

史官

外務大臣

出中

今般琉球使官上京二月愛宕下毛利高澄在邦
借更右旅館承設至不冒此由法局中亦有

壬申八月廿四日

外務省

琉球使臣接待掛

外務大臣官本小一

外務少記渡上管洪基

外務省吉普出仕任地知貞登

外務中 録副田節

鹿児島縣大層^{上層}尚徳

外務少 録上原久徳

外務少 録堀江弘貞

壬申九月四日同掛申付ノ姓名

鹿児島縣^{上層}押原

外務省

鹿児島縣権典子右松五助

鹿児島縣権左房全藤宏

鹿児島縣和史生上村彦四郎

鹿児島縣和史生録田中兵衛

右七名並日各送請書差出入

琉球人横濱及横須賀遊覽之儀、有伺書
琉球之儀、海隅一隅、西洋諸國之兵制、
勿論器械之藝、未夕不學、然、今般上京
之使臣、子孫之通、之控覽、一實地、為教員、擊
之、大小、今、之、步、趣、意、示、一、日、福、色、步、之
一端、之、お、本、一、つ、中、探、存、在、少、局、之、お、本、お、い、
海軍省及工部省へ、之、之、趣、早、速、お、沙、汰、お
申、度、お、紙、お、添、お、申、向、申、也

壬申九月十日

外務卿副島種臣

外務省

正院

出中

伺之通、海軍省工部省へ、お、達、お、条、日、限、一、等、外
省省申、今、お、取、計、事

正院
之印

壬申九月十四日

第一

海軍省諸器械一覽

第二

法軍艦ニ而横須賀製鉄所ニ至ル

第三

製鉄所諸器一覽

第四

法軍艦ニ而横濱ニ泊ル日ニ上陸

第五

外務省

横濱巡視

第六

蒸氣車ニテ内京

正院

外務省

法中

今般琉球國王ノ儀藩臣ニ被列テ儀ニ至
リテニ付テ古田國ニ儀貨幣無クテ

寛永通寶而以下通用存貯在者受此度
赤發行之新貨幣并之紙幣一紙幣一紙幣
三万圓五八下賜之國內へ頒布し
天潤澤ニ沾ヒ愈

皇恩を感戴ニ仕与有之由ニ為紙金高
お渡を採大在省へ送達可移有之依之
三万圓大小貨幣一別紙割合書お係お伺
有也

壬申九月十日

追々本文金言大小貨幣割合儀凡目

外務省

前お定有之紙幣五万圓分ハ在
今之紙金ニ依リ被是等引加減ハ大
在省ニ見込ニ随之支世之充一
少額金銀之分多キ方ニ仕度有也

伺之通下賜有之条大在省ヨリ一受取

事

九月十日

此度琉球使臣尚奉代リ封冊ノ詔書ヲ謹
領シ有之ニ以我藩属ノ體制徹層ニ到

多稼清處分者之度件、之在之申上
 一 同藩ハ片来法圖ニ關係シテ現在福あり
 二 高民表往ニ其他曾テ外國人の般渡應
 接セシ舊轍王者之意隆ニ要地ニ得
 本省官負在勅致サセ度事
 一 我政治制度ヲ漸ニ宣布ニ適否將來ノ
 目的ヲ定メ方為同藩租稅民政以下一併
 ノ風俗視察ト本省官員ニ同道ニ出省
 ヲリ官吏致 等遣度事
 一 琉球藩王ハ一等官ニ致 任出度事
 外務省
 一 尚恭儀華 族ニ致列在ニ付テハ其待遇ヲ
 厚クシ帰向ノ志ヲ堅クシテ事 切要ノ儀ニ
 者之仍テ東京有下ニ於テ家屋園倉等
 相應致在邦宅一園下賜リ度事
 一 琉球藩王ハ冠裳束帛皆具入朝ノ使臣ニ
 名ハ直垂總テ各ハ一領ツ下賜度事
 一 六條ニハ入朝ノ使臣帰 藩近ニ致 任出度
 事 裁決お願也

壬申九月十五日

外務卿副島種臣

正院

法中

来ル廿二日

天長節ニ付諸省奏任以上各

朝可致探訪達ニ付而王琉球使臣之名ニ儀王

奏任以探訪朝可致仰付式明朝廷ニ面答

兼リ度此如打同申

壬申九月十八日

外務大少丞

史官

外務省

法中

琉球藩

先年来其藩ニ於テ各國ト取結テ條約並ニ今
後交際ニ事 務外務省ニテ管轄ニ事

太政官

未定
小笠原島其藩ニ管轄ヲ仰付ニ事

右政官

六ニ通津下命亦奉度中亦向ニ事

壬申九月十四日

外務卿副島種彦

正院

出中

外務省

琉球藩王尚恭

藩内通融ニ為貨幣三万圓ト賜ル

事

壬申九月廿日

太政官

記

新貨幣三万圓也

全貨

二十圓

五十枚

但千圓

十圓

百枚

但子圓

五圓	三枚	但千五百圓
二圓	五枚	但千五百圓
一圓	三枚	但千五百圓

銀貨

各種二千五百兩ツ

五十錢	七千五百枚
二十錢	一萬八千七百五十枚
十錢	三万七千五百枚
五錢	七千五百枚

外務省

紙幣

各種二千五百兩ツ

五圓	二百五十枚
二圓	六百二十五枚
一圓	九千二百五十枚
半圓	二千七百枚

右之通り五枚事
 三萬圓也

壬申九月

今般使命ヲ奉シ入朝ノ要務ヲ封ノ藩王ト
シ華^孫ニ列セシム殊ニ

皇帝^{陛下}

皇后ヨリ此藩王及夫人ハ種々ノ重品ヲ下賜リ

辱クモ臣等

天顔ヲ拜シ

皇后

皇太后ヘモ内謁仕陸後ノ者ニ至リ皆寵惠

ヲ蒙リ天恩至渥奉謝ノ詞ヲ知ラス他日藩

王ヨリ御禮ノ儀何採ラシ哉内々御差圖ヲ

外務省

仰キ奉リ^御

壬申九月廿三日

正使尚 健

副使向 有恒

参議官向 維新

右指令

仔細知貞意ニ託シ謝表可差出ス

事

壬申九月廿八日

外務省

毎歲藩王ヨリ新正 天長節 鹿嶋島^三在^三付

テ度架ノ禮ヲ修ム然レ臣書翰而已ニテ誠致
表スル事ニ因茲以末右兩度ノ度賀土產
輕呂別紙ノ通り献シ奉リ微誠ヲ伸ニ
テ希フ是藩王ノ本意ナリ臣等余ヲ奉
シ伏テ懇願ス宜ク御執奏仰み以上

正使尚 健

壬申九月廿三日

副使向 有恒

贊識官向 維新

右指令

伊地知貞馨 托シ献上可致事

外務省

壬申九月廿八日

外務省

別紙覽書

一 絹地島細上布

十端

一 絹島細上布

十端

一 鳴納

十端

一 大平布

十丈

一 練芭蕉布

十端

先年其藩於西各國与取組其條約並三令
後交際之事務外務省ニ而管轄ス

壬申九月廿八日

大政官

外務省

別紙之通琉球藩へ達ス奉
事

壬申九月廿八日

右政官

外務省六等出仕信地知貞

琉球藩在勤申付事

外務省

壬申九月廿七日

外務省

外務少輔堀江弘貞

琉球藩在勤申付事

壬申九月廿七日

外務省

外務省六等出仕信地知貞

琉球藩在勤申付事

壬申九月廿七日

外務省

正院 外務省

丙午

今般球諸藩より東京へ郵宅より多量に何れは
 東京府へ空郵の方寄付多し郵宅より何れ
 多し探察より上は四町驛より高き寄付宅に
 見たりと付寄付と多し中一様形文造り
 号多し金三少田より臺海一と号と号不
 多し号名多し号上は球諸藩より下賜り
 物多し接符は用金三少田より号多し
 該雜費多し金三少田より台少田より
 少田より信三少田より台少田より台
 方より多し方少田より台少田より台

外務省

壬申九月十七日

皇國現今履行スル之、各國交際ニ関セシ
書款別紙目錄、通り差進也

明治五年壬申九月廿日 外務卿副島種臣

琉球藩王

閣下

目錄

一 亞墨利加合眾國條約并稅則彙文譯

一 尼達蘭條約并稅則彙文譯

一 暹羅斯條約并稅則彙文譯

外務省

一 不列顛條約并稅則彙文譯

一 仙蘭西條約并稅則彙文譯

一 葡萄牙條約并稅則彙文譯

一 獨乙北聯邦條約并稅則

一 瑞西合衆國條約并稅則彙文譯

一 白耳義條約并稅則彙文譯

一 伊太利條約并稅則彙文譯

一 丁抹條約并稅則彙文譯

一 西班牙條約并稅則

一 瑞典那耳回條約并稅則

一 漢地利兼洪噶利條約並稅則並橫文	一 希哇條約英文譯	一 新定約書並輸出入品運上目錄並規則	一 清國修好條約 和文漢文	一 同 通商章程	一 日本國海關稅則	一 法國海關稅則	一 傳信條約並書	一 古歷代正數	一 小笠原島開拓關係書	外務省	一 困難船救助心得並不軍港場取締	一 鴉片煙禁制布告書	一 小見賣渡禁制布告書	一 方今在留各國公使領事名号	一 官途必携	一 官等表	一 官員全書	一 外交須知	一 海軍旗章	一 船燈規則
-------------------	-----------	--------------------	---------------	----------	-----------	----------	----------	---------	-------------	-----	------------------	------------	-------------	----------------	--------	-------	--------	--------	--------	--------

一 諸標便覽表并横文

一 府縣概表

一 海外國勢便覽

一 突則錄

一 突則日記地圖

一 日本地圖諸類

日本輿地全圖 四冲全圖
富士見十三砂輿地全圖 小海邊國郡圖

一 清國及近傍諸砂圖

外務省

今般其藩へ本省六等出仕仔細知負替及層
史二名在勤被命外ニ大藏省官負ニ出張
ニ被申為御心得申進也

壬申九月廿八日

外務大臣西本少一

外務大臣柳原前光

正使尚健

副使向有恒

贊議官向維新

列位陛下

外務省

琉球藩王尚恭

自今一等官ノ取扱タルニ付
仰付事

壬申九月廿八日

太政官

外務省

琉球藩王尚恭自今一等官ノ取扱タルヘキ旨
被仰出ル条此旨お達事

壬申九月廿九日

右政官

琉球藩王尚恭

東京府下飯田町橋本坂ニ於テ邸宅一園下
賜事

壬申九月廿九日

右政官

外務省

外務省

別紙ニ通琉球藩王へ送達ニ有レ也

九月廿九日

史官

壬申十月七日

正院

副島外務卿

中

琉球藩へ本省官負任地知負整在勤為致
ルニ付之死刑之儀伺之上處立一ノ及探候
ル為被有旨新律綱領等格中度有旨

本省へお廻り申す候所、司法省へ送付申す候所、
申す申す申す也

壬申十月九日

琉球藩所屬分相本在二付る、同藩負債二
十萬圓之金高也、今般政有之、引請、このお
來、助之受、來朝使臣共ヨリ同藩限、而消
却、被度志願、之寄リ、右宮東京、之借替
被、得、之利、是、也、余程、之減省、二、つ、お、申、且
太、借、之、引、出、八、年、と、琉球藩、之、積、出、之、

外務省

砂糖積、之、シ、テ、一、万、五、千、石、に、有、之、申、得、也
大、藏、省、之、テ、無、申、之、引、請、無、之、申、得、ハ、何
分、出、金、之、志、無、之、仍、而、同、省、へ、お、合、申、候、事、候
申、之、趣、二、付、大、藏、省、之、儀、同、省、へ、御、下、令、申
有、之、度、志、候、地、知、負、額、來、ル、十三、日、出、發、之、
積、二、付、至、急、御、沙、汰、有、之、申、候、所、及、申、
申、候、所、也

壬申十月九日

外務卿副島種臣

正院

中

伺之通大藏省へ请示余相成之事

壬申十月十日

琉球藩使寅等昨日第十回愛宕下旅館引
拂呂川ヨリ鹿児島島孫持船へ乗込出帆仕
去長崎名中存也

十月三日

外務省

正院

未中

外務省

琉球藩負債之儀ニ付外務省ヨリ所
之通り正院ニお伺不交許可申付
不交既申渡申出報出ニ及有也

壬申十月十二日

外務大臣柳原前光

大蔵省大少丞

出中

琉球藩使臣 朝ニ付其不交ニ於テ被是

申付之儀ニ在東京中萬端致合免申運

申國移有就之申省六等出仕任地知

外務省

負費不交名目藩立勤政 仰付日行移有

百不後引引台一ノ及儀(王)ノ旨ニ付得也諸

事涉同旋有之度申入有也

壬申十月十二日

外務大臣柳原前光

鹿児島品冬事

出中

使臣一列十月二日午後第二時三邦丸へ乗付夕
 〱正風波荒キヲ以テ滞留スルヲ西日四日拂曉
 呂海ヲ登錨此夜伊豆ノ下田へ下碇ス碇泊中ニ
 日七日朝同港ヲ登シ同日難波川口ニ着シ即
 時上陸江戸堀北岸ノ旅店ニ投ス正使伊江王子
 ハ風氣ニ罹リ大坂ニ留リ副使賛議官ハ鹿兒島
 縣ノ官負ヲ案内ニ頼ミ一覽ノ為十二日大坂ヲ
 登シ京都府へ遊行シ十六日朝歸阪セリ戶籍寮
 七等出仕根本茂樹樹租稅寮權大屬小林好愛同中
 屬山崎潔琉球へ出張戶籍租稅取調ノ命ヲ受ケ
 十月五日東京ヲ登シ米ノ郵船ヨリ大坂ニ到ル
 琉球ヨリ鹿兒島縣ノ商人へ二十萬圓余ノ負債
 アリ二割余ノ利足ニテ年々消却ニ困却セリ故
 ニ輕目ノ利足ニ引替タク三使臣ノ懇願ニヨリ
 伊地知貞馨外務卿副島種臣三等出仕上野景
 範其外へ情實ヲ説テ願立表向正院へ伺ノ上井
 上大藏大輔保證ノ印ヲ受ケ年一割ノ利付五ケ
 年賦元利割渡ノ定ニテ第一國立銀行ヨリ金二
 十萬圓借入タリ此等ノ事ヲ以テ貞馨及ヒ堀江

外務省

弘貞小菅直達ハ前人ニ後レ同十三日祭程米國ノ郵船ヨリ大坂ニ赴キ十五日着坂セリ十九日川崎造幣局へ三使臣ヲ誘キ鑄金ヲ見ル此日大坂府権知事渡邊昇使臣ヲ三橋樓ニ招キ饗宴ス同廿一日使臣一列鹿兒島縣官員大藏省ノ三名及ヒ貞馨等同シク三邦丸ニ乗付大坂港ヲ祭ス廿二日朝讀岐ノ多度津へ下碇使臣上陸金毘羅宮ニ参詣ス翌廿三日味爽同港出祭二十五日鹿兒島へ着ス琉球へノ航海春夏ノ間ハ海上平和且輸出ノ品物モ多ケレハ頻ニ往來スレバ秋冬

外務省

ニ至レハ所謂七島ノ難洋風浪高ク輸出ノ品モ少ケレハ通船甚稀ナリ縣下ノ船モ諸方へ航海業へキノ船ナク止ヲ得ス商人持ノ西洋製ノ風帆堅龍九龍應九ニ隻ヲ約シ大藏省三人賛議官喜屋武親雲上ハ龍應九へ乗シ十一月廿二日鹿兒島出港同廿九日着琉ス正副使貞馨等ハ健龍丸ノ廻船ヲ待シ十二月四日大風起リ薩摩ノ内久志浦ニ於テ破潰セリ故ニ使臣申合人ヲ差立白川縣下ノ蒸氣船万里丸ヲ雇ヒ其來ルヲ待ツ此ノ船約束ノ期限ヨリ後ルヘシト長崎ヨリ

報知アリケレハ如何スヘキト思フ折シモ鹿兒
島縣下商人持ノ蒸気船寧静丸入港シケレハ此
船ヨリ航海セントノ約ヲ定タリ日ヲ同フシテ
同縣下商船蒸気元亨丸着セリ使臣ノ望ニヨリ
琉人ハ元亨丸ヨリ伊地知等ハ寧静丸ヘト定メ
タリ

鹿兒島滞在中

琉球藩

其藩ニ於テ是迄鹿兒島縣へ在勤申付置候諸
官員自今為引拂可申尤將來藩用ノ都合可有

外務省

之ニ付在来ノ琉館取縮ノ上藏屋敷等ノ名目
ニ改メ日用ノ物品相辦スル為メ下官兩三名
為相詰候儀ハ其藩ノ適宜ニ取計不苦候此
申入候也

外務省

十一月二日

外務省六等出仕

鹿兒島縣 伊地知貞馨

今般琉球藩へ別紙寫之通相達候間同藩御打
合不都合無之様御取詳可被成此段申入候也

同廿一日

琉球藩

御中

三籍寮七等出仕

根本茂樹

外務省六等出仕

伊地知貞馨

是近年々鹿兒島縣へ為租税相納候米并砂糖
同縣ヨリ其藩へ在勤ノ者取扱来候處被相廢
以來ハ其藩役々ニテ取立直ニ大藏省租税寮
へ上納可被致此段申入候也

同廿二日

鹿兒島縣 御中

外務省六等出仕

伊地知貞馨

琉球藩へ別紙寫^テ通相達候間為御心得此段

外務省

申入候也

明治六年二月廿三日使臣卜日ヲ同シ寧靜九元
亨九ノ兩艘へ各乗付鹿兒島前ノ濱ヲ出船ス午後
東風吹起ル元亨九ハ船行遅緩ナルヲ以テ其夜
口ノ永良部島へ下碇ス寧靜九ハ七島洋近ク進
ミタルレ^レ激浪進ミカタキ故引返シ翌廿四日朝
茅九時頃同港へ碇泊ス廿五日東風益烈シク元
亨九ハ遂ニ風濤ニ拂ハレ港口ヲ流レ出七島洋
中殆ント危ク使臣一列皆髪ヲ截テ神明ニ祈レ
リ廿七日ニ至リ漸ク喜界島へ流着ス寧靜九ハ

廿七日午前十一時頃口之永良部ヲ出港七島海
ニ向フ翌廿八日激浪船腹ヲ拍ヲ進ミカタキヲ
以テ暫時潮掛セント喜界島ノ内東間切ニ到レ
ハ量ラヌモ元亨九此所ニ漂着シ居タリ故ニ貞
馨等上陸使臣等ヲ慰籍シ寧静九へ乗移ラシ
ヲスニム其夜同所へ一宿ス三月一日正副使外
ニ十二人寧静九へ乗付冊封書拜領物其餘要用
ノ品物ヲ積移シ船ヲ同フシ同港ヲ出ツ

三月三日午前第十時那霸港へ着ス三司官以下
ノ官員出迎那霸西村ノ内親見世那霸琉球役ノ官廨也ニ投ス本

外務省

日鹿兒島縣ヨリ在勤シ居タル福寄助セヲ召ヒ
兼テ請取置タル本省九等出仕及琉球在勤ヲ命
セラル、書付ヲ渡セリ

四日着ノ祝儀トシテ藩王ヨリノ使者来ル攝政
三司官以下ノ官員各見舞アリ午後一時三司官
浦添親方鎖之側与那原親雲上來リ伊地知旅館
ニ於テ藩王ヨリ酒肴午飯ヲ供セラル此日伊地
知ヨリ浦添親方与那原親雲上へ左ノ書付ヲ渡
ス

覚

一朝夕ノ賄ハ此方ニ於テ萬事執計候ニ付藩ヨ
リノ手當ハ早々可被引取候

一音信贈答ノ儀ハ昨年御熟談ノ上取極候規則
ヨリ今一層手輕ニ有之度品物ニ至テハ一切
受納不致候間為御心得前廣御断申置候

五日攝政三司官等来ル 特典ヲ以テ冊封ヲ賜
ル事共ヲ説キ早ク謝恩書ヲ献呈致サルヘキ等
ノ事ヲ諭ス是ヨリ頻ニ来過論談説論スルノ數
回ナリ

六日堀江小菅首里ノ客屋ニ至リ藩王へ来着ノ

外務省

ヲ通ス

十四日租税戸籍取調ノ了終リ又レハ大藏省ヨ

リ出張セシ根本茂討小林好愛山寄潔風帆龍應

九ニ乗組本日午前第九時過出船帰京セリ

十九日藩王ヨリ招請ノ約アルニヨリ伊地知堀

江小菅三人禮服着用馬ニ乘リ午前第十時旅館

ヲ發シ首里ノ客舎ニ至ル午後第二時迎ノ使来

リ玉城ニ到ル城門ニ入ルヤ樂人庭樂ヲ奏ス藩

王玄闈マテ出迎ヘ伊地知ヲ引キ中堂ニ座セシ

ム献酬ノ禮アリ此時庭樂ヲ奏セリ堀江小菅繼

テ藩王ニ面接ス終ツテ一座ニ休憩禮服ヲ脱シ
常服ヲ着ス琉官伊地知ヲ引テ別席ニ到ル藩王
出各座ニ着ク藩王ヨリ今般使臣ヲ止京セシメ
シ處格別ノ待遇ヲ蒙リ奉リ殊ニ特恩ヲ以テ冊
封ヲ賜リ華族ニ列セテレ重大ノ品物ヲテモ下
賜リ鴻恩感戴ニ禁サル旨ヲノテ依テ朝旨ノ
仁慈ヲ説キ永ク遵奉セラレタキトノヲ諭ス
程ナク酒肴ヲ設ケ献酬ノ礼ヲ行フ坐樂ヲ奏ス
堀江小菅出テ藩王ト献酬ス中城王子出ツ又
献酬セリ席ニ列レル琉官員ハ藩王傾餘ノ杯ヲ

外務省

傳ヘ酌ハ飯桌出ツ座終リ城中ノ庭園ヲ歩行シ
午後五時比又一席ニ着キ藩王出テ酒肴ヲ饗應
セリ攝政按司三司皆献酬ス夜ニ入り九時頃坐
ヲ辞ス藩王玄関マテ送ラル歸路駕ニ乘シ十時
前帰館セリ

此日三人ヨリノ進品九ノ通

- 一酒 一荷 二十盃
- 一昆布 一薑 三十斤
- 一茶器 一具

藩王ハ

一酒	一荷	一昆布	一臺	二十斤	一縞	一緞	一端	中城王子へ	右伊地知ヨリ	一扇子	一箱	一白銀	貳兩	太刀馬代	一白麻	三十帖	藩王へ	一扇子	一箱	一白銀	二兩	太刀馬代	中城王子	右堀江ヨリ	一扇子	一箱	一白銀	一兩	太刀馬代	一白麻	十帖	藩王へ	一扇子	一箱	一白銀	一兩	太刀馬代	中城王子へ
----	----	-----	----	-----	----	----	----	-------	--------	-----	----	-----	----	------	-----	-----	-----	-----	----	-----	----	------	------	-------	-----	----	-----	----	------	-----	----	-----	-----	----	-----	----	------	-------

外務

右小管ヨリ

一廿日昨日ノ禮トメ堀江小管午前第八時通過
館ヲ出テ首里客舎ニ到ル夫ヨリ伊地知モ同
行民間ノ榮枯農務作毛等見聞トメ小祿間切
大嶺間切ヲ經過シイチヨマニ間切ノ番所ニ
宿ス翌オ一日諸所巡廻夜ニ入り帰館
十五日喜界島ニ残りシ琉人共同島ニ廻リ居タ
ル鹿兒島縣下高船西洋製ノ風帆興龍丸ニ乗付
此日着港セリ

外務省

廿六日雨全體琉球ハ二十六度餘ニ當ル暖島ニ
テ四時草木鬱蒼年々稲秧ハ舊曆十二月末ヨリ
正用ニ掛植付唐芋ハ植續ケニテ二年ニ五度ノ
取実アリ此島南北ニ流レ幅員狭ケレハ大河ノ
灌クヘキナク稲田モ皆天水ヲ待ツ然ルニ昨年
十一月ヨリ雨降ラスノ秧ヲ挿ムアタハス適
植付タル秧モ枯果民間食料ノ唐芋モ植付カタ
ク今日少ク雨フルト雖モ潤トナル程ニ至ラス
田地亀拆萬民饑色アリ三十日南島諸所測量トソ
御軍艦大坂丸當港へ着セリ海軍大録川村久直

伊地知旅館へ来り本省ヨリノ御用書類ヲ渡ス
即チ琉役へ宿手當等ヲ命ニ那覇内ニ三ヶ所旅
館ヲ定ム翌日一日海軍大佐柳猶悦伊地知宿へ
来リ測量ノ為八重山島へ航海ノ下ヲ告ク依ツ
テ海路ニ熟セル琉人ニ名ヲ案内ニ出スヘキヲ
約シ琉役へ其旨ヲ達シ置ケリ

四月一日各所巡回トノ伊地知堀江小管同行午
前第十時旅館ヲ出テ城間亘野灣間切ヲ經中城
番所ニ投ス中城ハ故城趾ニテ東南ノ海上ニ臨
テ突起シ眺望快潤坐ノ大陽ノ波上ニ出没スル

外務省

ヲ觀ル二日同所ヲ發シ西原間切ヲ巡覽興那原
浦ニ宿ス三日同所ヲ立チ浦添間切見分午後十
時歸館セリ

六日柳猶悦川上久直外三四名ヲ誘ヒ伊地知堀
江小管一同乘馬藩王ノ別墅識名ノ茶屋ニ遊フ
園池出達畧東京濱離宮ノ風致アリ此日測量船
第一丁甲九着航セリ

十日丁卯九ハ琉球内ノ諸港及計羅間島ヲ測量
シ大段九ハ八重山ノ内石垣島ハ表島ヲ測量ト
定マリ柳猶悦等乗付案内ノ琉人ニ名ヲ乗セ霸

江ヲ出船セリ
十一十二十三ノ三日雷雨土田澗澤作毛稍蘇生
土人喜色アルヲ覺フ

十三日冊封ノ謝 思書ヲ呈シ上下ノ折合粗定

ラハ伊地知ハ一往帰京スヘシト魚テ外務卿ノ

許ヲ受ケタレハ福寄差ニ同行ノ堀江小菅ハ在

留伊地知一人帰京ト定メ近日中當地出發スヘ

キ旨ヲ琉藩ニ通シケレハ来ル十六日餞筵ヲ開

キ度ト藩王ノ使者来ル辞謝再往ニ及ヘトモ聞

入ス情義ヲ破ルモ却テ如何ト存シ其意ニ應セ

外務省

十六日伊地知藩王ノ招ニ應シ午前第十時旅館

ヲ出馬上首里ノ客屋ニ到ル午後第二時迎ノ使

来リ崎山ノ別荘ニ到ル藩王玄関ヲテ出迎フ酒

肴ノ設ケ献酬ノ禮城中ノ招請ヨリハ半ヲ畧セ

リ座末ニ米村ノ楽人列リ唐樂ヲ奏ス夜ニ入坐

ヲ辞シ九時過帰館セリ

此日進品九ノ通

一酒 一荷 二十五

一松魚節 一箱 三十本入

藩王へ	酒	一荷	二十五
松魚節	一箱	二十本入	
中城王へ	藩王ヨリノ贈品		
一紺地島細上布	二端		
一鏡屏風	一		
十女日伊地知出祭ニ付藩王中城王子ヨリ左ノ 品ヲ贈ラル三司官浦添親方鎖之側幸池親雲上 ヲ呼固辞スレ臣屢陳言ノ趣アリケレハ之ヲ受			
納セリ			
節々品物被遣候ニ付			
一藤緑盆	二		
一縮緬 <small>白紅</small>	二卷		
一縞細	二端		
一紺地島細上布	二端		
餞			
一扇子	一箱		
一太平布	十疋		
一練蕉布	十端		

外務省

REEL No. 1-0320

0300

一 綿子 十把

一 焼酎 二壺 六十五盃入

右藩王ヨリ

一 扇子形藤縁盆 二

一 縮緬 白紅 二巻

一 縞緬 一端

一 紺地縞緬上布一端

一 唐紙 一帖

右中城王子ヨリ

同日伊地知へ離杯ヲ勸メント三司官以下六七

外務省

名来レリ堀江小管モ同シク夕刻ヨリ那覇ノ内

善興寺ニ到リ招請ヲ受ク午後十時前帰館

十八日近日中伊地知発艦ニ付馬上首里客屋ニ

到リ離別ヲ告ク撰政三司官宅へモ暇乞トノ差

越セリ此日藩王ヨリ贈品ノ礼滞在中優待ニ豫

リシ謝儀トノ伊地知ヨリ藩王へ尤ノ品ヲ贈レ

リ

一 酒 一樽 五十五盃入

一 松魚節 一箱 三十本入

一 大甘 一組

一 八丈縞 十五端

一 蔭画鞍鐙一具

十九日 撰政三司官以下ノ琉官十餘名及鹿兒島
縣ヨリ 詰居タル人々ヲ伊地知旅館へ招キ留別
ノ宴ヲ設ク夜十時頃宴罷ム

外務省